

八月三日、四日。この二日間、私は東京大学見学会企業、大学訪問に参加し、生涯でもう二度と体験できないような貴重な体験をした。この2日間の体験の中で私が触れた新しい世界について、ほんの一部ではあるがこれからここに書き記していこうと思う。

まず初日の午前中のディレクトフォース。ここでは多種多様な経歴をお持ちの方々とお話をさせていただいた。今まで自分が全く想像もしなかった、知り得なかった世界が、この世の中にはまだまだ溢れているのということを感じた。また、グローバルに活躍なさっている講師の方々の話からは、ある共通点を見出すことが出来た。それは、自分の考えをしっかりと持っている、更にそれを周囲に発信しているというものであった。今までは英語ができて仕事ができるような人が世界を股にかけるものだとばかり思っていた。しかし、それだけではダメなのだ。ある企画の一つにするにも、何かの計画をするにも、グローバルに活躍する際、必ず仲間というものが出てくる。その時、自分の意見を持ち、しっかりとそれを表現していかなくては、そのプロジェクトを進めることはできない。だからこそ、周囲とうまくやっていく協調性、コミュニケーション力が重要になるのではないかと思う。もう一つ、お話をされていて感じたことがある。それは、視点を複数持つておられるということだ。ディレクトフォース中のある方のお話の中のことだ。その方は、今問題視されている地球温暖化について、決して悪いことだけではないとおっしゃった。それは、北極の氷が溶けることにより、その下にあるかもしれない資源が採取できる、今まで無かった新しい航路が開けるからだそうだ。私は初め、この発言を耳にした時不思議な気持ちを抱いた。尊敬の様な感嘆の様な気持ちである。世界中で悪いと言われている地球温暖化に対して、良い面も有ると言うのだ。一方向からだけでなく、他のアプローチの方法を考えられる人がこれからの世界を大きく変え、動かしていくのだらうと思った。

また、このディレクトフォースでのグループディスカッションの際、講師の方全員にいつ頃この仕事に就くことを決めたかを尋ねた。実は今、私は将来について悩んでいる。ぼんやりとした目標はあるが、具体的な自分をつか掴めていない。だからこそ、今回の研修で将来についての答えを見つけようと思っていた。そして、講師の方から返ってきた答えは、私を非常に驚かせ、又、安心させるものであった。それは皆、就職するときだと言うからだ。私の質問の意図を伝えると、尚更今は広く深く知識をつけて欲しいと言われた。仕事は人生の約半分を占めるもの。興味のあること、楽しいと思えること、好きなことでなければやってられないから、とも。そのアドバイスを胸に、今はずっと付き合っていけるような天職を見つける為に、様々な経験をしていこうと思う。

次に、初日の午後行われた企業訪問。私たちの班は、新潮社を訪問した。事前に質問していたことの答えを中心に取締役の方とお話をさせて頂いた。そのお話の中で、特に心に残っている言葉がいくつかある。一点目は、仕事をする上で心掛けていることについて質問した際、「読者目線を第一に」という答えだ。その例として、芸能人の推薦文を広告に載せるということ挙げられた。最初、そのどこが読者目線を第一に、に繋がっているのか分からなかった。理由を聞くと、本に興味が無くとも、ファンの芸能人が面白いと言っていたら、読んでみようと思う人がいるかもしれないということだった。なるほどなと思った。ここでもまた、豊かなものの見方、考え方の重要性を思い知らされた。

二点目は、仕事をしていて一番嬉しい時はという質問に対して、「初めに作家の作品を読み

る時」との答えだ。多くの人の手に取って読んでもらえることも嬉しいが、世界で一番目の読者になれるという感覚の方が、とても嬉しいとおっしゃられていた。これを聞いて、私は出版社の方は本当に本が好きなんだなと感じた。

三点目は、私たちへのメッセージとしての「努力を尽くした後は、流れに任せる」という言葉だ。仕事をしてきて、幾度となく勝負の場面に遭遇してきたそう。そんな時、自分を安心させるために人事を尽くして天命を待つ、という慣用句を自分なりに噛み砕いたこの言葉を使っていたそう。仕事をする上で、つい悲観的になりがちな時もあるが、良い意味で楽観的に考える方がうまくいくというアドバイスも長年の経験によって培われた考えだと思う。

初日最後の企画は、二高 OB、OG との懇談会だった。東京方面の大学に進学して、さぞ堅く真面目な方ばかりだろうと思っていた。ところが、どの方も明るく気さくで話しやすかった。また、話を聞いていても、生活習慣、学校生活、勉強法 など、自分と似ている点が多く身近に感じられた。(テストの順位、点数はかなり離れていたが...)そして何より、一番共感できたのは入学当初に行われる応援練習についてだ。どの先輩も二高ライフを語る時に欠かさず触れていた。話を聞くと、昔の方がもっと辛かったとか。今年入学していて本当に助かった...。質問タイムとなり、なぜ東大に進むことを決めたのかを尋ねてみた。すると、「東大を目指して勉強しておけば、とりあえず日本の大学どこでも行けるようになるから。」と一言。この瞬間、この二日間で最大の衝撃が私を襲った。そして今でもその感動を鮮明に思い出すことができる。それほどこの一言は私にとって大きな出来事であった。私もこれからはとりあえず東大を目指して勉強していこうと思う。(ここに書いたからにはこれから二年半死ぬ気で勉強しなくては...)

二日目。研修最後は東大のオープンキャンパスへの参加だった。私は薬学部へ申し込みをした。薬学部では、認知症の研究をしている先生の模擬授業や、研究室見学など、とても貴重な体験が出来た。模擬授業では、現在の認知症の薬では、発症したものを完治させることはできない、だから早め早めの予防が重要だと伝えられた。研究室見学で学生に薬学部に入った理由を聞くと、「医者は患者さんを診るのに最低でも 10 分はかかる。そうすると、一日で助けられる人数には限りがある。でも、薬学を学び薬を一つ作れば何百、何千もの人を助けることができると思うんだ。」と言われた。考えてみればその通りで、彼の考えはとても正しいと思われた。私も彼のように明確な理由をもとに、将来の自分を決めたいと思った。

薬学部以外にも、飛び入り参加のできる学部、研究室を探し、幅広く色々な学問に触れてきた。おかげで、とても有意義なオープンキャンパスであった。

さて、ここまで書いてきたが、私が新たに学んだことは他にも山ほどある。もし、この研修に参加していなかったら、私の考えは以前のように狭いままで、大きなことを見落としていただろう。今回、二日間という短い間ではあったが、参加して本当に良かったと感じている。普通に暮らしては、まず会うチャンスの無い人たちと折角話し合えたのだから。今回気付いたこと、知ったことをこれからの人生に活かさない手はない。まだ時間のある今、もう一度ゆっくり将来について考えてみようと思う。また、今回の研修に携わってくださった先生方、私達を快く受け入れて頂いた企業の方々、OB、OG の皆さん、研修に参加させてくれた両親のおかげで貴重な体験が出来たことを忘れずに、これからの人生を歩んでいこうと思う。